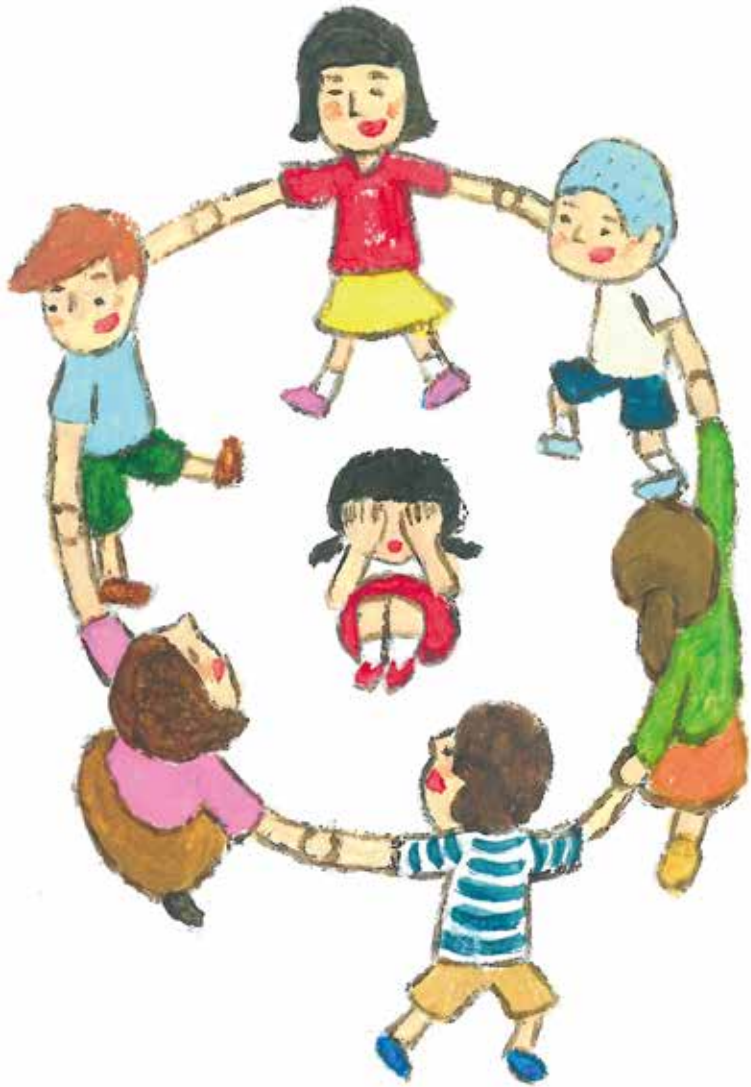




か

かごめかごめ

目かくしできたら仲間のひよこ



眼から得られる情報は、他の感覚器と比較できない程多く、大人でも目隠しをすると、すくんでしまう人がいるくらいです。私たちは、眼の他に、さまざまな感覚器をもっています。そのなかでも、最初に働きますのは触覚です。赤ちゃんは、お腹の中で、指を自分の口の中に入れたりしていますが、きつと指をしゃぶる感覚を味わっているのでしょう。聴覚も早くから発達しており、お母さんの声が聴き分けられることは、よく知られています。

さて、「かごめかごめ」で遊ぶときは、目隠しをするので、視覚器が使えない状況となります。光に対する感覚が閉ざされ、音に対する感覚と第六感を働かせて

「きつと〇〇ちゃんがそこにいる。なんか、そんな気がするよ」と遊ぶのです。

そのため、幼い子にとっては「かごめかごめ」は難しい遊びとなります。そこで、幼い頃は特例待遇の「ごまめ」になって、眼をあけて輪の中に一緒にいれてもらった経験が、みなさんにもありませんか。

このように、多様な年齢の子どもたちが一緒に遊ぶ中で、子どもたちは、もまれ、たくましく育ち、社会性を身につけていくのです。そんな豊かな人の輪の中での育ちが、今の子どもたちもたくさんできるといいですね。